

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（設問の都合上、表記を一部改めたところがあります）

迷いに迷って答えが見つからず、決断できなくなったらどうするか。^①迷路にはまり込んで、それこそ二トになったらどうするか。そんなことも聞かれる。

大切なのは「思い切る」ことである。思い切るとは、「思い」を「切る」ことだ。十分に迷うだけ迷って、思うだけ思って、もうこれ以上、迷えない、思えないとなれば、そこでもう考えるという行為自体を切ることだ。もう頭を使うのはやめる。あとはどっちでもいいから、（①）一歩踏み出してみる。何でもいいから行動する。一歩踏み出せば景色も変わる。（ a ）

むろん、危険な道が、すべての人にとって、正しい選択ではないし、迷ったぶんだけ正解に近づけるという保証もない。（②）、迷ったときに大切なのは、かならずしも正しい答えを導き出すことではないのだ。そもそも何が正しい選択であつたかなど、後から振り返ってもわからない。（③）、明確な答えが見つからない状態にいても、パニックにならない、そのなかで何とか最悪の事態を避けられる。そんなわからないということへのタフネス（たくましさ）を身につけることこそ生きる上でもっとも重要だということを、大人は若者にもっと伝えるべきだ。

大人というのは、わからないながらも何とかできる人のことをいう。

高校生や大学生の時代には、とにかく多くのワケのわからない体験を少しでも多くしておくべきだ。犯罪などの^{注1}利己的で他人に迷惑をかけることは困るけれど、少なくとも自分の理解可能な範囲だけで行動すること、貴重な十代を費やすのは、随分ともったいないことだ。今のうちにせつせと未知のことに挑戦して、たくさん失敗しておくべきだ。

旅をしたければすばらしい。言葉や価値観などまったく理解できない場所^{注2}で^{注2}翻弄^{ほんろう}される体験のなかで自分のなかにどんな化学反応が起こるか、確かめてみればいい。恋愛や失恋もいいじゃないか。これほど理屈どおりにはいかない、まさにワケのわからないこともない。

大学の^②コウギ^②だって、すぐにスイスイ理解できるコウギなんて、そんなモン、出ても無駄だ。「よくわからないけど、なにか気になる」。そんな不思議な魅力のあるコウギや教師の言葉に触れることは、きっと将来財産になる。

古典もいい。文学でも、映画でも、音楽でも、落語でも、何でもいい。今流行の作品もいいが、人気があるのは、わかりやすいからだ。わかりやすいものは、長く自分のなかに役に立つものを残さない。^③それに比べて古典は簡単な理解を許さない。だからこそ、長い間、多くを^{とりに}虜にし続けてきたのだ。そんなものは良いものに決まっている。

どんな古典がいいのか。何でもいい。レンタルショップで気になるタイトルの映画があれば、その監督の作品を全部見ればいい。図書館や本屋で目にして、自分にとってリズムが^④心地よい文章に出会えれば、そ

の古典の作者とは（ b ）のだ。古典に触れることで、意味とか解釈とかではなく、とにかく自分のリズムを磨く。そんな生きるリズムが苦しいときに自分を支えてくれることになる。

（玄田有史「わからなくていいのだ」より）

注1 利己……自分の利益だけを考え、人のことは考えないこと。

注2 翻弄……思うままにもてあそぶこと。